

あすなろの家 事業報告

各事業部・全体を通しての状況報告

・各事業部の様子

特養・ショート

特養では、自立支援介護のより一層の推進と、重点課題でも取り上げた「おむつゼロ」を達成する為に、6月からグループケアを開始した。職員をグループごとに固定し、グループごと生活をしていただくことで、ご入居者と職員との距離を近くなりより深い関わりができてきた。また多少狭い空間となるが、転倒などの事故のリスクも低減させられたのではないかと感じている。重点課題の「おむつゼロ」は残念ながら達成することはできなかった。各職員の中で、「自立支援介護」の本来の意味・目的が共通の認識となっておらず、修正に時間がかかってしまったことが原因と考える。来期は早い時期に「おむつゼロ」を達成したい。ショートでは、利用率の低下が年間通しての課題であったが、利用して楽しいと感じてもらえる行事メニューを企画し、行事予定のカレンダーを作成・周知した。また月に2回ではあるが、ご利用者と職員での手作りの昼食・おやつなども取り入れ、「自立支援介護」も少しずつ取り入れた。

ケアハウス

生活の活性化・自立支援介護の取り組みとして、ケアハウスメニュー（焼きたての鰯の開き・そうめん・鍋焼きうどん・餃子など）として、ご入居者が自分たちの食べたいメニューを自分たちで調理して食べていただくということを取り入れてみました。また散歩や喫茶などの行事への参加に対して、ポイント制とするなど、楽しみながら参加できる仕組みも行い、生活の活性化、ご入居者同士のコミュニケーション向上、職員との信頼関係を構築することができたのではないかと感じています。今後は、地域との積極的な関わりができる場面を多く作っていくことに取り組みたい。

ケアマネ

家族向けの自立支援説明会を7/31・8/2に実施、42名のご家族に自立支援について説明させていただいた。施設と違い、主介護者のご家族ということ、あすなろの在宅サービスだけではなく、他の介護事業所との関わりもあるため、自立支援介護に理解を深め進めていくための段階を慎重に行う必要があると感じている。地域に向けては、なごみ茶屋で行っている出張相談を、S型デイサービスや生協の交流室を使用させていただき、拡大することを計画していたが実行するまでには至らなかった。

在宅（デイ・ヘルパー）

デイサービスでは、アクティビティー活動に歩行を取り入れる時間を作った。7月からはエスカルゴを取り入れ、ポイント制にして、達成ポイントごとに粗品と賞状を差し上げるなど自発的な運動の機会を提供できたのではないと思う。また職員とご利用者で作成している壁面画の展示会を、飯田生涯学習交流館・は一とびあ、そして初めてテルサでも開くことができた。自立支援介護の「水分」の大切さを、寸劇にして説明する機会を設けた。ヘルパーでは、職員募集を常に行ったが、一人も雇用することができなかった。年度途中には、他のヘルパー事業所が閉鎖になるなどの影響で、新規の訪問依頼が多くあったが、お断りすることなくサービス提供責任者・在宅主任も訪問に出て何とか対応した。

厨房

特養・ショートで頻繁に行われた手作り昼食・手作りおやつをフォローしながら、より食欲の出るメニュー（混ぜご飯・炊き込みご飯）を検討し試行した。そして、栄養師・調理師も食事介助に入り、実際の食べ方、介助の状況を体験することで、調理方法や食材の選定に役立てた。また特養・ショートでお正月に提供する松花堂弁当をデイサービスでも提供し好評であった。そして、飯田地区社協さんの依頼で、「親子ふれあい料理教室」の講師を行ったり、給食便りを発行するなど、地域を意識した取り組みも行った。

・地域／外部との関わり、連携

- | | |
|-----------------------|-------|
| ・飯田地区S型デイサービス外出行事への協力 | 17回／年 |
| ・飯田地区S型デイサービス山田主任参加 | 26回／年 |

- ・やごみ茶屋出張相談会 1回/週（火曜日）
- ・飯田中学校職場体験学習受け入れ 5 / 12 ~ 14
- ・ボランティア交流会開催 5 / 19
- ・飯田地区社協企画「高齢者と子どもの料理教室」
に講師として管理栄養士・調理員参加 8 / 7
- ・静岡市「元気いきいきシニアサポーター事業」受け入れ
- ・納涼祭にて、飯田地区社協よりボランティア協力を頂く
- ・港まつり参加
- ・山原盆踊りに参加 8 / 9
- ・関田神社秋のお祭に参加（カラオケ大会） 10 / 10
- ・さつま芋掘り（園芸ボランティア） 10 / 20
- ・飯田祭参加 10 / 25
- ・飯田地区S型デイサービス懇談会開催 11 / 30
- ・飯田地区社協主催「調理実習」に管理栄養士参加 3 / 5
- ・**オールあすなろの実践**
 - ・キラキラday 施設内や施設近隣の清掃活動 4回/年
 - ・職員お揃いのポロシャツのデザインを全職員から募集 5月
 - ・特養の昼食食事介助に全部署からフォロー
 - ・経費削減アイデアを全職員から募集
 - ・ケアハウスバス旅行にヘルパー・特養介護職員が参加
 - ・職員の子どもさん向け「あすなろの家に行ってみよう」企画 8月
 - ・丁寧語での対応を全部署共通のルールとした
- ・**公衆衛生（労働安全）の取組**
 - ・腰痛予防 スポーツトレーナーを招き、体のチェック方法・体のずれ予防・予防の動き方を講義・実演していただく。そしてビデオ撮影した実演を各部署会議で9月～11月の間で放映し、確認・周知した。また10時・15時30分に放送設備でチャイム・音楽を1分間流し、その間は業務の手を休め、講義で習った腰痛予防体操を行うことをルールとした。
 - ・メンタルケア 「職員のこころのケア」の一つとして涙活を実施した。こころが疲れる仕事、自分にあったストレスケアの啓発のために
 - ・感染予防 11月～3月に実施（手洗い・うがい・マスク着用・換気・超酸化水使用の徹底）
 - ・職員へのインフルエンザ予防接種実施（全額施設負担）
 - ・産業医（小林dr）に相談・助言のもと、職員の同居家族に限りインフルエンザ治療薬の予防投与を行った。
- ・**防災の取組**
 - ・部分訓練として、職員参集計画・災害用非常伝言ダイヤルの体験訓練を実施 7 / 1・3 / 1
 - ・清水消防署/消防団との合同火災避難訓練を実施 11 / 15
 - ・防災委員への訓練として、発電機作動訓練・防災無線使用体験・非難生活用品使用方法搬送マット使用方法などの訓練を実施
- ・**職員育成の取組**
 - ・内部研修（26回/年）開催、職員自身が講師となり行った。
 - ・エキスパートスキルリーダーを配置
OJTを通じて職員の能力（スキル）の向上、やりがい向上、そしてサービスごとバラバラではない共通のサービス（スキル）を提供できるようになるために実施した。